



## 大切なものは目に見えない

学 園 長 小 島 澄 人

幼児教育の目指すものは「子どもたちの非認知能力の向上」です。目に見えないものほど大切だ、形として表現できないものを評価しよう、そうした思いを受け止め頑張ってきました。

「目に見えない」、誰もが「形で示して欲しい」と求めがちですが、幼い時の子どもたちに「形で」、と求める姿勢を思いとどまってほしい。わあきれい、うーんどうして、すごい、あこがれ、頑張っていく姿、どれひとつとっても本当に大切なものです。きれいだなあ、そう思える体験を持たせたい。おいしいなあ、頑張つてすごいなあ、お友だちいやかなあ、よろこぶかなあ、そうした思いが日々の繰り返しの中で身につくものばかりです。お父さんお母さんは大事に、お友だちも大事に、自分の周りの人が大事に思えてきます。自然に触れ合い、その中で育った野菜や果実を食し、その成長に驚き、またその神秘を垣間見る。子どもたちは大根の種、ゴマみたいな小さな種がいつの間にか、自分では掘り切れないほどの大きな大根になった、「すごく大きく、ものすごく重く、そして本当においしい」、と知りました。それを迎えたお母さんの「わああ凄い！」の仕草に驚き、すまし顔が素敵です。子どもたちはいろんな遊びを通して、楽しさを覚え、友だちのありがたさを感じるものです。先生の優しさに触れ続けて家族以外の「大好き」を得ます。

大切なものは目に見えない。目に見えないからこそ大切なんです。子どもたちの評価を形に出ないところに目を向けてほしい。子どもを否定したりからかったり言い聞かせようとしたり黙らせたりはしなくなります。どの子どもどの子も素晴らしいです。

発表会、あの子どもたちの輝き、それは大好きなお父さんやお母さんが見ているからです。「見てもらいたい」のは、大好きだから、大好きな方から「褒められたいから」です。いつもの自分と違っている、変身している姿を見てもらいたいもの、家に帰っての家族の会話が楽しみでした。

お餅つき、楽しくできました。柿の実では10の臼でにぎやかにお餅を搗きました。40人ほどの搗く人、各クラスには200人のお手伝い、本当にありがとうございました。また大学の柔道部の学生さん10人、また監督とコーチ、いろんな投げ方を披露していただきました。お餅つきに花を添えてくれました。

2023年も良き年であるよう、頑張りたいと思います。

